

## 平成29年度第2回青少年指導関係運営協議会 会議録

日 時 平成29年10月12日（木）  
午後3時から午後4時30分  
場 所 市民総合福祉会館第1談話室

出席委員 縄谷尚志委員、池谷道雄委員、薄葉良委員、地曳文利委員、  
平田辰雄委員、稲井陽一委員、鎌田哲也委員、齋藤和利委員、  
櫻井隆雄委員

### 1 開 会

### 2 まなび支援センター所長挨拶

### 3 協議

#### ①「管内の青少年の現状と小中学校の取り組み」

木更津市小中学校長会 木更津市立清川中学校 校長 縄谷尚志 委員

#### ②平成29年度まなび支援センター青少年指導関係活動中間報告

#### ③報告・意見交換

### 【事務局から説明】

それでは只今から、平成29年度第2回木更津市青少年指導関係運営協議会を開催いたします。会議開催にあたり委員14名のうち、9名の出席により会議が成立いたしますことをご報告いたします。なお、本協議会は、木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されておりますが、本日の傍聴人はございません。それでは、協議に入ります前に、木更津市まなび支援センター所長の齋藤よりご挨拶申し上げます。

#### **齋藤所長あいさつ**

それでは、これから、協議に入りますが、吉田会長が欠席されておりますので、木更津市まなび支援センター管理規則第3条第4項の規定によりまして、齋藤副会長に議長をお任せいたします。齋藤副会長どうぞよろしくお願いいたします。

#### **〈齋藤副会長〉**

それでは、協議に移りたいと思います。協議事項①といたしまして、木更津市小中学校長会 木更津市立清川中学校 校長 でいらっしゃいます縄谷委員から「管内の青少年の現状と小中学校の取り組み」についてお話をいただきたいと思います。

縄谷委員よろしくお願いいたします。

#### **〈縄谷委員〉**

～講話概要～

南房総教育事務所管内の生徒指導の現状ですが、平成28年度のデータはまだ出ていないので、平成27年度のデータということになります。まず、暴力行為についてですが、暴力行為分類別及び総発生件数について、小学校では、対教師暴力が平成25年度55件、平成26年度75件、平成27年度33件、生徒間暴力が平成25年度70件、平成26年度207件、平成27年度252件のほか、対人暴力、器物破損の件数の合計は、平成25年度148件、平成26年度298件、平成27年度349件ということで、対教師暴力は半減しているものの、それ以外の項目は、確実に増加の一途をたどっています。中学校では、対教師暴力が平成25年度36件、平成26年度68件、平成27年度24件、生徒間暴力が、平成25年度138件、平成26年度304件、平成27年度173件のほか、対人暴力、器物破損の件数の合計は、平成25年度264件、平成26年度545件、平成27年度275件ということで、中学校では総発生件数が26年度から半減していますが、これは、教職員が日常の指導において、生徒に寄り添い、きちんと向き合ったことが結果に表れたと考えられています。続きまして、学年別加害児童生徒数についてですが、平成25年度から平成27年度において、小学校1年生が、順に、7件、10件、28件、小学校2年生が9件、14件、33件、小学校3年生が9件、20件、26件、小学校4年生が23件、50件、40件、小学校5年生が23件、56件、33件、小学校6年生が18件、24件、64件、中学校1年生が117件、124件、104件、中学校2年生が107件、168件、68件、中学校3年生が152件、127件、85件ということで、小学校の合計が89件、174件、224件、中学校の合計が376件、419件、257件となっています。小学校低学年と6年生で暴力行為が顕著に増加していること、加害生徒数自体は、中学校が多いものの、増え方は小学校のほうが大きいこと、小学校6年生から中学校1年生への進級時に暴力行為を起こす件数が5倍近くあるなど、憂慮すべき状況にあります。暴力行為の発生件数と加害者数を対比してみると、同一の児童生徒が複数の暴力行為を起こしていることから、中学生においては、中1ギャップや思春期の心の変化等の視点で、生徒を捉えなおす必要があるのではないかと考えられています。

次に、いじめについてですが、過去3年間のいじめの認知件数については、平成25年度から平成27年度において、小学校では、順に、1541件、1723件、1957件、中学校では632件、614件、689件ということで、小学校中学校合計では2173件、2337件、2646件となっております。小学校、中学校ともに増加傾向にあり、高い数値ではありますが、児童生徒をしっかりと観察し、積極的に認知していこうとする姿勢の表れのもとでの数値であると考えられます。学年別いじめ認知件数の割合ですが、中学校1、2年生の認知件数が他学年に比べかなり多いので、いじめの原因を分析するとともに、具体的な対応について検討を要するものとなっております。いじめの発見のきっかけですが、認知総数からみた割合で申し上げますと、平成25年度から平成27年度にお

いて、小学校では、順に、担任発見が38.5%、27.2%、21.0%、本人訴えが18.0%、24.6%、24.8%、保護者訴えが6.4%、7.7%、6.8%、アンケートによるものが29.3%、34.0%、40.6%、中学校では、担任発見によるものが17.4%、20.7%、16.4%、本人の訴えが19.8%、20.8%、16.8%、保護者訴えが7.6%、5.7%、10.0%、アンケートが40.0%、41.5%、42.1%ということで、小学校中学校ともに、アンケートでの発見が一番多いことから、児童生徒対象の調査を定期的実施することが重要であると思われます。いじめの主な態様といたしましては、小学校中学校とも約半数が「冷かしくからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」ことで、その他「軽くぶつかられたり、遊ぶふりして叩かれたり、蹴られたりする」、「仲間はずれ、集団による無視をされる」が、毎年上位3つを占めています。中学校では、スマートフォン等の所持が増えることから、「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる」行為が多くなっています。ネットやSNS上でのいじめが緊迫した課題であることを各学校で強く意識し、情報モラル教育に積極的に取り組んでいく必要があると考えております。思春期における心の安定や人間関係の構築の不十分さが伺えることから、学級や部活動における集団づくりが求められています。

次に、不登校児童生徒についてですが、平成25年度から27年度において、小学校では、順に、103件、136件、127件、中学校では386件、427件、399件ということで、小学校中学校の合計で489件、563件、526件となっております。学年が上がるにつれて、不登校児童が増加する傾向にありまして、特に、小学校から中学校に進学する時に、一気に増加する傾向があります。無気力の傾向が強く、勉強、部活動、人間関係等、新しい生活への不安や悩みを抱える様子が伺えます。家庭内における問題や児童生徒の気質が重なったケースでは、改善が難しいのが現状でございます。

本校の生徒指導の取り組みについてですが、学校教育目標といたしまして、新学習指導要領の「主体的、対話的、深い学び」へ向けてのキーワードとして、「自ら、共に、さらに」としているところであります。生徒指導の具体的な取り組みといたしましては、まず一つ目といたしまして、いじめは、「やられた生徒が苦痛に感じる事」のすべてが該当することを職員全員が認識し、少しのこともいじめとしてカウントしています。二つ目といたしましては、定期的にいじめアンケート調査と教育相談週間を実施し、いじめの早期発見、早期対応に努めております。三つ目といたしまして、全学級で、学校生活の満足、不満、安心、不安の様子をアンケートで客観的に把握する調査、hyper-QUを分析して、学級内のより良い人間関係づくりを目指しています。四つ目といたしましては、学校外のLINE等から発生するいじめ防止のため、情報モラル教育として、外部講師を招聘し講習会等を実施しています。特別支援、不登校生徒への対応でございますが、特別支援・長欠対策委員会やケース会議で具体的な支援方法を検討しております。スクールカウンセラーや心の相談員との面談や外部の相談機関へ繋げ、困っている子どもの支援を担任

だけではなく、関係者チームで考えて行っております。問題行動への対応でございますが、生徒指導部会を週1回開催し、情報を共通理解しております。また、外部機関との連携に努めています。最後に、自己肯定感向上への対応といたしまして、学力、あいさつ・集会、環境美化・清掃、ICT、心・道徳、の5つのプロジェクトによりまして、学習面、情緒面を育てております。特に、規律面、環境面、心情面を大切に、「指導してできたらほめる」ことを積み重ねて、自己肯定感を高めています。「場が人をつくる」、色々な場を経験することで人は成長するということを全職員で認識し、意図的に学校行事等で一人一人の生徒が頑張ることができる場をつくるよう努めています。

#### 〈齋藤副会長〉

貴重なお話ありがとうございました。学校のほうの取り組みということで、「みんなの学校」という映画がありましたが、校長先生が中心になって、特別支援学級をつくらずに学校全体で子ども達を見ていこうというもので、子ども達一人一人が子ども同士で子ども達を見て、また、先生がその子ども達を見て、という形で、学校に来ない子どもを先生が迎えに行ったりしながら、同じ教室で一緒に学び、不登校も特別支援学級もない学校というのがありましたが、それを思い出しました。折角の機会ですので、ご質問等ございましたらお願いしたいと思います。

#### 〈平田委員〉

問題行動を起こす家庭環境はどのような感じの人ですか。例えば、片親の家庭ですと、昼間、家庭で教える人がいないから自由になりすぎてしまって、勝手に生きていく感じになってしまう、そういった環境が影響しているのかなと思ひまして。

#### 〈縄谷委員〉

問題行動を見ていると、片親だから、という影響はあまり感じられません。片親の家庭はそれほど多くはないです。最近は父子家庭も増えてきていますが、片親になっている家庭というよりは、家庭の中で何かごたごたがあると、子ども達に影響がでることを感じています。

#### 〈櫻井委員〉

単位PTAとの関わりについては如何でしょうか。学校と単位PTAとで協力していかないと、なかなかこういうことはなくなっていくかと思ひますので。

#### 〈縄谷委員〉

役員会などで校内の現状を報告したり、学校便りに載せるなどして協力をお願いします。SNSのことですとか登下校の仕方についてですとか。

#### 〈鎌田委員〉

加害児童生徒のデータで、小学校低学年になればなるほど数が急激に増えているようですが、なかなか分析は難しいんだろうと思ひます。ケンカをしたから加害者というように扱われてしまうのか、悪意があつて意図的に加害児童になっているのか、小さな子が何でそうになってしまうんだろうと、少しショックでした。少子化で兄弟が少ないからで

すとか、家庭の事情が影響しているからですとか、それぐらいしか思いつかないですけど、ショッキングですよ。

#### 〈縄谷委員〉

小学校一年生ですとなかなか落ち着かなくて指導も大変だと思いますが、幼稚園で躰がきちっと出来ている子は、小学校一年生でもきちっと出来ています。幼稚園小学校の連携も大事だなと感じています。

#### 〈齋藤副会長〉

高校のほうはどうでしょうか。

#### 〈池谷委員〉

SNSの問題では、被害者が加害者になる可能性もあります。定時制に来る子は家庭的に大変な子が多いと思います。母子家庭や父子家庭も多いです。そのような状況の中で生きていけないといけない。アルバイトをして、勉強もして、高校も卒業したいんだけど、やはり、まだ子どもですので、情緒不安定な部分があります。特別支援が必要な子、長欠だった子、いわゆるやんちゃな子、色々な子が一クラスの中にいますので、ちょっとした拍子で色々なことが起こってしまう。ただ、子ども達は頑張っています。よくこの家庭環境で仕事をして、学校に来て、夜の9時近くまで我慢して勉強しているなど。

#### 〈薄葉委員〉

君津4市と市原市の中学校さんと情報交換会をしておりますが、暴力行為、長欠、いじめ関係で数字的なものは、高校に入ってくるとガクンと減ります。ものの考え方も高校生になってくると段々大人になってきますので、段々落ち着いてきますが、高校に入ってきた時に注意して指導していかないといけないなと感じています。

#### 〈稲井委員〉

予想以上に低く驚いたのは、不登校になったきっかけと考えられる状況ということで、いじめが原因というのがすごく低いですね。学校における人間関係ですとか、その辺りに潜在的なものがあるのかなと思いつつ、先生方に相談したらこのいじめってなくなるかもしれないという期待がどんどん芽生えてきているのかな、とか、そういったことを考えておったんですが、実際のところその辺りはどうですか。

#### 〈齋藤副会長〉

相手が嫌だと思った瞬間から、そこからもう、いじめという判断になると思うんですが、相手を殴ったら相手も痛いし自分も痛い、そこで、お互いの痛みがわかって、ある程度抑えが効いて、というのが昔はありましたが、今の子達は、ゲームだとかで戦っていて最後に相手がなくなっても、リセットすれば、また、生き返ってくるという、そういった感覚が一部にはあるのかなと思います。いじめではないですが、課題を一つ与えられて、それが完成するまでは仕事が終わらない、本人が嫌だと思ってもそれをやらないと仕事として成り立たない、給料をもらえないということで、与えられたことに対して何処でギブアップするか、ギブアップしたいところを我慢して何とか完成させたり、逆に、何処でへ

ルプするか、加減というのが一番難しいところかと思います。いじめの定義が下手に子ども達を柔らかい布の中に包み込みすぎてしまうと、そのあと、世の中で生活できない子どもができてきて、それが二次連鎖して、という嫌な予感がしてしまいます。

#### 〈櫻井委員〉

若い子は我慢強くないですよ。色々な部分を見ていても、粘り強くないですよ。

#### 〈鎌田委員〉

社会に出てきた時に心が折れてしまう。人として成長していく段階で鍛えられるという、勉強だけしているのではなくて、人と人の間で揉まれながら、社会に出てからも荒波に揉まれながら、そういうことは成長していく過程で必ず必要なんだろうと思うんですが、そこを小さいうちから家庭の中で、可愛い可愛いだけじゃなくて、小さな社会を形成しているという躰、そういうところに立ち返って人を育てていかななくてはいけない、そう思います。

#### 〈齋藤副会長〉

大人と接触する場所が、学校、コンビニ、家。昔は、その間に隣近所のおじさんおばさんがいて、そこで色々なことを教わって、人と人が、二人以上いれば、違う人間ですから、そこには摩擦も生じるけれども、その摩擦を覚えながら、怒られ、褒められ、教えられる。子ども達の居場所づくり、他人と一緒に、交わりながら、接しながら、教わって、褒められたり、褒めたりという、そういった会話が必要なのかなと思います。

#### 〈地曳委員〉

地域で地域に住んでいる人達を支え合うということが福祉の考え方としてございますので、そういった中で、お年寄りの方ですとか年配の方が、地域にどういう住民が暮らしているのかということを見つめ直していただく一つの形として、子ども食堂ですとか、主体的な取り組みを進めているところが出てきています。ですので、市役所のほうとしてはそういった地域の事業を支援していくというようなことで今のところは考えているところでございます。そういった広がり在今后とも期待しているところでございます。

#### 〈齋藤副会長〉

学習支援ということで今後パイロット的に何箇所かスタートということですが。

#### 〈地曳委員〉

塾に通いたくても家庭的な経済的理由によって通えないというような方もいらっしゃるんですけども、勉強してせめて高校に進学をしたいという方もいらっしゃいますので、そういう方を対象に学習支援をボランティアとして、学生さんの教師グループ講師グループと学びたいという受講者グループを集めて、学習支援の事業を展開しているところです。その中では、特徴的なやり方としてお互いにニックネームで呼び合うということで、何処の誰かというのをあえて明かさないというような工夫もしているところでございます。

#### 〈齋藤副会長〉

地域で支えてあげて、子ども達が自分の家族以外と接触する機会を多くつくってあげる。

社会に揉まれることに繋がるかどうかわかりませんが、色々なかたちでの刺激をそこで受けていければと思います。

#### 〈池谷委員〉

今、学校の中が悪循環ですね。教員は絶対に手を出さないとわかっているから色々やる子がいる。学校が学校の体をなしていない。何をやっても学校の中だったら大丈夫だと思っている。その子達が社会に出た時に、社会の仕組みは全然違うので、そのままでは社会に入れる訳がないですし、会社で勤まる訳がない。そういうふうにしてしまっているのは我々教員でもあるし、親でもあるんですが、今、すべてがおかしいんじゃないかなと思います。このままでは、これから子ども達が生きていくのに生きていけないんじゃないかなと思います。色々なことが悪循環になっていると思います。

#### 〈平田委員〉

はじめをつけずに曖昧にすると、その子はそれで良いと思ってしまい、社会に出て変なことになる。育ち方がおかしくなる。厳しいかもしれませんが、将来を考えると早くわからせて欲しい、若いうちにわかって欲しいと思います。

#### 〈縄谷委員〉

今、上下関係が弱くなってきているように思います。3年生がいてもビシッとしないとか。いじめの問題もあり、部活動等で強い指導ができない面も見られます。

#### 〈齋藤副会長〉

この問題は、これから色々、複雑な問題も出てこようかと思いますが、引き続き、協議していきたいと思います。縄谷委員ありがとうございました。続きまして、②平成29年度まなび支援センター青少年指導関係活動中間報告について事務局より説明願います。

#### 〈齋藤所長〉

### 平成29年度まなび支援センター 青少年指導関係活動中間報告

#### 〈齋藤副会長〉

それでは、本年度の中間報告について協議してまいりたいと思います。それぞれの委員の皆様のお立場から、ご意見等ございましたらお願いいたします。

ご意見等がないようですので、センターの運営については、皆様からの様々なご意見をいただきながら、実施していただければと思います。それでは、時間の制約もございましたのでこれで協議を終了いたします。進行を事務局にお返しします。

#### 〈事務局〉

委員の皆様、貴重なご意見ありがとうございました。

次回、平成29年度第3回の運営協議会は、平成30年2月19日月曜日、場所は同じ福祉会館を予定しております。よろしくをお願いいたします。それぞれの委員のお立場で今後とも青少年健全育成のためにご尽力いただければ幸いです。当センターの運営にご指導ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます、本日の会を閉じたいと思います。ご協力ありがとうございました。